2023年度第２回　豊岡市総合教育会議（定例会）議事録

・開会及び閉会の日時及び場所

開会日：2023年10月３日（火）

場　所：豊岡市役所　３階　庁議室

所在地　　豊岡市中央町2－4

開会時間　　午前　９時00分

閉会時間　　午前11時5分

・出席者の氏名

出席者　　豊岡市長　　関貫　久仁郎

豊岡市副市長　　土生田　哉

豊岡市教育委員会

教育長　　嶋　公治

委員　　向井　美紀

委員　　飯田　正巳

委員　　升田　敏行

・事務局等関係者の氏名

事務局　　教育次長　　正木　一郎

教育総務課長　　木之瀬　晋弥

学校教育課長　　寺坂　浩司

学校教育課参事兼教育研修センター所長　　服部　隆

学校教育課参事兼課長補佐　吉谷　孝憲

学校教育課主幹兼指導主事　川島　秀博

教育総務課学校再編・施設整備室参事兼室長　野﨑　律男

教育総務課学校再編・施設整備室参事　岡　憲司

教育総務課学校再編・施設整備室主幹　加藤　哲夫

教育総務課課長補佐　　植田　真美

教育総務課総務係長　　藤田　祐

ＤＸ推進部経営企画課長　　真狩　直哉

・日程

１　開　会

２　あいさつ

３　協議事項

(1) 学校の空調設備整備について

(2) 教育現場でのICTの活用について

(3) STEAM教育の推進について

４　報告事項

(1)部活動の地域移行について

５　その他
６　閉　会

・会議の概要
----------開会　　午前９時 00 分----------

【日程１　開会】

（正木教育次長）

定刻となりましたので、ただ今から 2023 年度第２回豊岡市総合教育会議を開会します。本日、佐伯和亜委員が欠席されておりますので、ご了承ください。開会にあたりまして、会議の主宰者であります関貫市長よりごあいさつを申し上げます。

【日程２　あいさつ】

（関貫市長）

おはようございます。今日は皆さん、大変お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。最近は子どもたちに関する環境整備ということで、いろんな面が取り沙汰されております。世の中の変遷とともに、また、我々の力ではどうにもならない自然の力によっての環境変化ということであります。そういった点をいつも我々は追いかけ、追いかけ、それを改善していくべく手法をとりながら、対応しているわけですけれども、間に合うものもあれば、間に合わないものもある。しかし、どうしてもやらなければいけないものもあるという判断を求められます。今日は、皆さん方とやりとりをして、今後どうしていくべきかということも重く感じて話し合いを行いたいと思います。

また、先ほど言った中で、世の中の流れということがあります。将来、子どもたちが育っていったその時に、子どもたちが太刀打ちできない世の中になっていっては困ると。世の中は変化する、そして、子どもたちも変化に準じるような成長をして、その時には活躍ができる人間となっていただきたいというふうに思っております。そういったところも、将来を見据えて、皆さん方と言葉を交わしていきたいと思いますので、今日はよろしくお願いします。

（正木教育次長）

続きまして、教育委員会を代表しまして、嶋教育長よりごあいさつをお願いします。

（教育長）

おはようございます。大変たくさんの傍聴の方がおられます。こんなにたくさん来ていただくのは、私が教育長になって、初めてですし、それから、これだけではなくて、定例教育委員会にも年々多くの議員の皆さんが傍聴に来ていただいて、教育に関心を寄せていただいていることに関しまして、本当に嬉しく思っております。

私は年間、だいたい 200 近くの授業を見て回ります。これは子どもの事実とか、あるいは、先生のありようが噂とか評判とか、そういうことではなくて、本当にどんなことが起こっているのかということを実際に見て、肌感覚で感じて、それを教育施策に活かしていける、そんなふうに思って、現場を見ていきます。本当に数年前に問題であったことが、今は全く問題になっていないということもありますし、新たな問題も出てきています。学校はどこに行っても、中学校も小学校も、本当に落ち着いています。かつては、机の上に顔を伏せて授業を受けていないというような子が何人かいましたけれども、全くそんなことも見当たりません。

ですが、やはり、問題は大きく３つ、１つは不登校の問題です。コロナ前は 100 人弱、90 人前後で、30 日以上の欠席者が推移していましたが、この３年間グッと増えて、昨年度は 150 人を超えています。これが１つの大きな課題。

２つ目は、先生たちの働き方改革がなかなか進まないということと、保護者対応が難しくなってきているということ。

３つ目は、特別に支援を要する子どもたちの数がどんどん増えてきている。どう対応したらいいのかということを、本当に方法はたくさんあるのですけれども、それがその子に合っているかどうか、合っていなかったら、やはり子どもは不満に思いますし、保護者も不満を持つというようなことです。それで、今言ったようなことというのは、本当に一生懸命やっていても、目に見えない。外にはその頑張りが目に見えない。でも、私は、今言ったようなことこそ、学校教育がいちばん中心課題として考えて、大切にしていかなければならないことだというふうに思っています。

今日の協議内容は、そういうような大切な教育を下支えする教育環境の問題であります。空調の問題もそうですし、ICT の問題もそうですし、STEAM 教育というような、先ほど市長がおっしゃったように、新たな国の流れ、国の流れというか、世界の流れですけれども、これにどういうような環境整備をし、対応していくかというような問題です。

それから、昨日、部活動の協議がありましたが、もう課題だらけで、どっちに向いて、何をしていったらいいのかというのは、なかなか模索して、わからない状況がありますけれども、いずれにしても重要な問題、そして、それを支える環境の問題、一体的に考えていって、豊岡の子どもたちがしあわせに育ち、そして、羽ばたいていって、そのあと、もう一度豊岡を選んでくれるというのも教育の大きな使命だというふうに考えていますので、傍聴に来ていただいている皆さんの力をいただきながら、市長部局とも力を合わせながら、やっていきたいと思います。盛りだくさんですので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

［日程３　協議事項］

（正木教育次長）

それでは、協議事項に入ります。内容について、１つずつ説明をするために、担当部局の職員が出席しておりますので、ご了承ください。

議題の１つ目、「学校の空調設備整備について」です。資料はモニターか、または、お手元のタブレットをご準備いただけたらと思います。この案件につきましては、今年の猛暑を受けまして、急遽、議題に上げさせていただいたものでございます。現時点では、まだ事務局での案の段階で、教育委員の皆さんにも、これまでの定例会の中で、ご協議いただいたものではございませんけれども、今後のスケジュールを考えますと、すぐにでも検討を始める必要がございます。そのため、本日の議題とさせていただいておりますので、ご了承ください。

それでは、教育総務課より説明をいたします。

（教育総務課　岡参事）

協議事項１番目の「学校の空調設備の整備について」説明させていただきます。

「小中学校の体育館の整備について」、体育館に空調設備を付けたらどうかという方針で、まず、１つ目として中学校の体育館に整備を進めます。そして、２つ目に空調設備でも、大型スポットエアコンを使って、空調を整備します。そして、３つ目に、2024 年度に９校すべての中学校に整備する提案をさせていただきます。

背景としまして、炎天下の豊岡だけではなく、日本が暑くなっているので、気温が30度を超える日も多くなっているという状況にあります。体育館の使用で、部活動や体育を実施するときは、WBGT という熱中症の暑さ指数があって、気温 35 度以上で、写真のメーターの赤いところ、31 という目盛りがありますけれども、そこの31を目安にし、体育の授業をするしないの判断をしています。

市内で体育の授業が今年度できなかった日は、北中学校で４日間ありました。授業としてできなかったのはこの４日間で、部活動として使用できなかったのは、南中学校の３日間と、北中学校の６日間です。喫緊の課題ではないけれども、今後授業に支障をきたしてくるということが予想されます。

この写真が利用実績記録を取っている北中学校の８月の状況ですが、判断目安の 31 というのはなく、今年は 30 が最高で、この判断目安の指数を使って、31 を超えて、授業・部活動を中止したということはなかったようです。

使用回数を部活動とか授業を１コマ計算すると、体育館の使用が６月から８月までで、１校当たり多いところで、155回、少ないところで、17回体育館を使用しているのが実績です。

今の空調設備の参考となる実態としまして、文部科学省から体育館の空調設備の設置率が公表されています。昨年の９月の設置状況ですが、全国平均で、11.9％、兵庫県で、26.6%になります。この内訳の中で、空調設備と一概に言いましても、スポットエアコンという冷風機で、水を下に置いて、それで冷たい風を出すという75万円ぐらいの機械を使って、それを体育館に１台設置しているだけでも100%設置ということになります。養父市ではこのスポットエアコンの設置で100%という数字になっています。

朝来市につきましては、普通の空調エアコンを体育館に設置して、断熱工事はされていません。あと、残すところは武道館だけですので、避難所としての設置は100%の設置率になります。

近隣の香美町・新温泉町・京丹後市は、設置はまだですが、香美町は来年以降、断熱工事をしたエアコンを設置したい意向で、予算化を考えているということでした。

この写真が朝来市のエアコン設置状況です。断熱工事をしていないので、空調設備が数多く設置されております。

山形県で部活をした後に、中学生が通学路で倒れて、亡くなったという悲しい事故がありました。山形県はこの事故を受けて各中学校に移動式のスポットエアコンをそれぞれ２台付けたということです。この写真ですが、スポットエアコンというのは、こういったものです。

近隣の福知山市にある、福知山城の天守閣にも導入されています。

整備対象は、中学校の体育館で、優先的に整備するということです。小学校は、今後、検討することにしていますが、理由の１番目としては、中学校は部活動で、暑い８月中でも体育館を利用していること、２番目に中学校は指定避難所にもなっていること、３番目に市内の県立高校１校もガスヒーポンで、体育館にエアコンを設置することが決定されています。

文部科学省からの通知でも、９月15日に断熱性を確保した補助金を活用した体育館への導入の検討等の記載があり、来年度以降の夏に備え避難所となっている体育館にエアコンを入れる検討をするように通知が来ています。

概算費用のページです。大型スポットエアコンは、１台 400 万円ぐらいするものです。もともとビニールハウスの中を冷やしたり、暖房したりするものなので、30ｍぐらいまで強風が届くのです。体育館の特定の高さ３ｍ ぐらいを居住域として、冷やしたり、暖房したりするもので、断熱工事は必要としないものを想定しております。

これが各校、面積割合で、59台ぐらい必要で、それを割り戻すと１校あたり 2,600 万円ぐらい必要になってくると思っております。総額としては、２億 3,600 万円で、緊急防災減災事業債が使えます

ので、10 分の３が市の負担で、7,080 万円ぐらいが市の負担になります。主に電気代の維持管理費用が１校あたり 50 万円見込んでいますので、９校で年間 450 万円を想定しております。

そして、実施設計の費用がかかります。今見積もり中なので、算出できておりません。中学校の体育館に大型スポットエアコンを付けた場合の台数内訳ですが、だいたい北中学校ぐらいの 1,000 ㎡で８台、港中学校も４台ぐらい必要としております。

この資料が電気式、ガス式や大型スポットエアコンなどを検討した結果で、いちばん、費用対効果において大型スポットエアコンがいいだろうと判断させていただきます。

時間がないので、一部省略させていただいて、昨日、大阪府羽曳野市の誉田（こんだ）中学校に視察に行ってきました。この大型スポットエアコンを導入されているところです。体育館の真ん中あたりまで、冷風は来ておりました。最初この体育館の中にある熱中指数表で27.3という数値を示していました。稼働を最大にして、30分冷やしていただくと、25まで下がりました。たぶん暑い日でもこれぐらい運動ができるぐらいまで館内の指数は下がっていたということを校長、教頭先生に確認しました。この写真はスイッチです。これが２階の通路に付けているスポットエアコンで、エアコンの後ろの通るところが狭くなって、配管の上に階段をつくっています。駆け足で説明させていただきましたけれども、以上になります。

（正木教育次長）

事務局から、説明をさせていただきましたけれども、まだまだ事務局での案というふうな段階でございますけれども、説明をお聞きいただきまして、市長から、どのような感想を持たれたかというのをお話しいただけたらと思います。

（関貫市長）

前回の議会においても、この内容に関しましての質問をお受けしたりしましたし、近年の気候変動によって、まずは、普通教室に入れたというのが過去にありました。入れた理由としては、やはり、学習環境としては、もう耐えがたい環境であるというのが、前提にあったと思いますし、そのために国も力を入れてくれたという経緯でしたが、今回も、基本的な概念は一緒だと思います。子どもたちの学習の一環には、当然、体育館を使った授業があると。その授業をする環境を、尋常ではない環境から脱皮させるというか、回避させる。それは授業とともに、放課後のクラブでも同じような趣旨で、やっていくべきであろうというのは、皆さん、一貫した考え方だと思います。

ところが、やはり、地方が単独でやるには、財政的な問題というのがどうしても絡んでくるということで、なかなか普通教室の空調ということもできなかったというのもあったのですけれども、今回は、体育館が対象でありますので、その体育館を考えると、避難所としている状況がありまして、そっち方面での財政的支援というのがあるというのも事実ですので、それを利用して、なんとか設置できないかと。そしてまた、設置する際も、文部科学省では、先ほどちょっと出ましたけれども、断熱処理をというものがありますけれども、なかなかそこまでやると、額も重なるし、時間も重なるということも明らかに言えるので、先ほど、視察に行っていただいた使用事例というもので、感じていただけたと思いますけれども、もちろん、効率化したものを入れるというのは当たり前の話なのですが、実用に足るというものであれば、私はそんな大枚を使ってやる必要はないと思いますので、極力、財政的にも効率的な面を重視して、選択、そして、内容的・機能的にも合理的な面を重視して、選択、その結果を出していただきたいと思います。

（正木教育次長）
　市長から、財政的なことでのお話がございましたけれども、事務局で、特にその点で、補足をいただければと思います。

（教育総務課　岡参事）
　断熱工事をした場合の文部科学省は、令和７年度までは２分の１を補助するとしているのですけれども、断熱工事だけで、4,400 万円かかってしまいますので、補助されたとしても、財政的には負担がかかるかなと思います。

（正木教育次長）
　具体的な国の動きというのは、今ここに出ているということはありますか。

（教育総務課　岡参事）
　断熱工事を施して、空調設備を新設すれば補助金が出ますよ、ということの通知が来たということです。

（関貫市長）
　普通教室のときは、10 分の 10 出たのかな。

（教育総務課　岡参事）
　いえ。
　普通教室は３分の１です。特別教室のときは、コロナの臨時交付金で、全額国から出ました。

（正木教育次長）
　朝来市はそれを？

（教育総務課　岡参事）
　朝来市は、その臨時交付金を全額、体育館に使われました。羽曳野市も臨時交付金で、大型スポットエアコンを最初は設置して、足らず分を緊急防災減災事業債で措置するということでした。

（正木教育次長）
　今回、豊岡市で考えている財源的な部分というのは、どのように考えているのでしょうか。

（教育総務課　岡参事）
　　今回、緊急防災減災事業債という市債を使い、市は 10 分の３を負担することで考えています。

（正木教育次長）
　教育委員の皆さんも、まだ正直、事務局の案をお示ししたという段階で、教育委員会の会議で、具体的に審議いただいたという経緯はございませんけれども、お話を聞いていただきまして、何か、学校現場もご存知いただいていると思いますので、ご意見がございましたら、お話しいただけたらと思います。どなたからでも結構です。

（向井委員）
　市長からの有難いご意見、嬉しく思いました。今年の夏は本当に暑かったので、毎日のように防災無線で、危険な暑さなので、運動や不要な外出を控えましょうという放送がありましたが、そんな中でも、子どもたちは毎日一生懸命、部活に取り組んでいました。子どもたちも大変なのですが、子どもたちが熱中症にならないようにするための先生方のご配慮も如何ばかりかといつも思っていましたので、それが、少しでも軽減できるので、大変有難いと思っています。

（正木教育次長）
　他にありませんか。

（飯田委員）
　私も同意見です。今、この時代に、これだけの暑さになると、子どもたちの健康を考えるのが第一番だと思います。

（升田委員）
　同じ意見です。市長から前向きなお話をいただいて、私も有難いと思っています。違う関係で、私も南中を使わせていただいたのですが、会議等で教室をお借りする中で、空調がしっかり効いていると、子どもたちはここで一生懸命勉強しているのだなと感じ取ることができました。実際に利用して、良い面を大いに実感することができました。今度は体育館に着手していただけたら本当に有難いと思っています。

（正木教育次長）
　先ほどの事務局の説明の中で、ちょっと時間がなくて、説明を少し端折らせていただいた部分がありますけれども、工法的な比較という部分を詳しく、もう一度ご説明いただけたらと思います。

（教育総務課　岡参事）
　工法についての比較検討資料です。このEHP・GHPというのが、電気式とかガスヒーポンと言われている、普通のエアコンを設置した場合の空調方式です。大型スポットエアコンは、今回、設置を考えている農業用のビニールハウス向けのエアコンです。スポットクーラーというのが、よく高速道路のトイレの入口に置いてある下に水をためて冷風を出すものです。もうひとつが閉校した学校のエアコンを移設する形態です。いちばん左の普通のエアコンというのは、断熱工事を必要とするもので、これは文部科学省が情報提供している北中学校ぐらいの体育館を全部 1,000 ㎡で比較しています。この規模で断熱工事の概算費用が 4,000 万円で、空調設備が 2,600 万円です。大型スポットエアコンですと、だいたい 400 万円のものが８台ぐらいで 3,200 万円ということと、スポットエアコンは２台設置して、75 万円のものが２台で 150 万。閉校した学校は、だいたい 12 台ぐらいあるのですけれども、それを移設してきても１校ぐらいしか設置できないのと、製造メーカーもバラバラなため、スイッチも整備しにくいということで、×にしております。

（正木教育次長）
　国庫補助の対象にしようとすると、いちばん左の手法を取らないといけない。

（教育総務課　岡参事）
　断熱工事の工期もかかるということです。今、考えている工法ですと、１週間から２週間ぐらいの工期が必要だということです。

（正木教育次長）
　目標の３番目に、来年、夏までの整備を目指しているということで、達成するには、いちばん左の手法というのは、かなり難しいというふうに思いますが。

（教育総務課　岡参事）
　今から設計をして来年の６月、７月に間に合うように大型スポットエアコンで、やらせていただければと思います。

（正木教育次長）
　実際に昨日、視察で効果を検証できたということですね。

（教育総務課　岡参事）
　このスポットエアコンのファンに手を当てると、数秒ぐらいで手が冷たくなって、手を引っ込めないといけないぐらいです。この参考写真は一体化された移動式もので、すぐ後ろに室外機が付いています。施工は、普通のエアコンのように、壁に穴を開けて配管し、室内機と室外機を分けて設置します。

（正木教育次長）
　今、委員の話ですとか事務局からの説明をさせていただきましたが、財源的なこともありますので、副市長の方からご意見等ございますでしょうか。

（土生田副市長）
　まず、選択肢としては、来年の夏に間に合わそうと思いますと、国庫で断熱工事を行っても、４月以降に入札したところで、とても夏に間に合うとは思えないということもあります。今、財政に指示していますのは、来年の夏に間に合うように起債が確保できるかどうか、来年度予算に乗せて、４月以降の発注にして、間に合うとは思えないので、早い機会の議会に予算を提案する。ただ、当該年度事業にしますと、２億数千万円の起債の獲得ということもあるので、国県に丁寧に十分お話をしていかないと、当該年度でいけるかどうかの問題もあるので、今、最短でできる方法を確認してくれと指示を出しております。ただ、１つ、市長からも提案があるのですけれども、逆に、維持コストの問題が将来的にわたって、すごく負担になってこようと思っています。ここについて、市長からご確認を。

（関貫市長）
　先ほど申しました内容で、これを導入すべきという考え方は、当然、皆さんと同じと思っていただいて、結構です。
　しかし、私の立場で言うと、市全体の予算、並びに、教育委員会自体の予算も併せて考える必要があります。仮にこの概算経費のごとく、維持費・管理費用、年間 450 万円というのが今後重なっていくということが事実として出てきますから、その部分をどうするかということで、学校のことですの

で、それを教育予算の中から支払っていくということになれば、その分、教育予算全体を増やしていく、あるいは、現況の中で、他を我慢していただいて、450 万円を捻出していただくというような傾向にもなりがちです。

ところが、そういったところも気にする中で考えると、今、放課後以降、夜間ですね、特に。夜間に学校開放というのをさせていただいておりますが、その夜間開放の中で、使っていただく時は、大人の方が使われるグループ、または、スポーツ21など学校の活動以外で、使っていただくということなので、今のやり方としては、体育館等におきましては、電気を使っていただくというようなことがあっても、無料で開放している。

しかし、同じ学校施設の中の、外のグラウンドのナイター設備の電気を使っていただいている時には、実費を負担していただくという状況が続いています。私はちょっと不思議な点があったのですが、その辺を、実質、受益者負担という言葉がよくありますけれども、今の無料開放が是か非かという部分を再度検討していただいて、今、申し上げました年間経費として、発生しうる 450 万円がどこかで補てんできるようなかたちを考えていただきたいと思います。

もちろん、それも不可能だという点が仮に出たとしたら、市全体としての予算の中で、教育費にプラスαという方向になる可能性もありますけれども、やはり、現状は先ほど言った受益者負担、公平性というのがちょっと欠けていると私は感じていますので、その辺をどうしていかれるかというのを検討していただきたいと思っています。

（土生田副市長）

適正負担というふうな上げ方は、当局側で、別途検討させていただきたいと。社会体育に今まで、学校開放が体育館であれば無料みたいなかたち、減免になっていましたけれども、夜間の開放をすることによって、子どもたちの教育予算に影響が及ぶということがないようにしたいと思っていますので、適正な負担のあり方というのを改めて、当局側も検討させていただきたいと考えています。

（教育総務課　岡参事）

エアコンのスイッチです。この写真が風量のボリュームで、ここにスイッチがあります。コインボックスがあり、社会体育の使用時は、ここに 100 円玉を入れて、1時間 100 円とかいう使い方ができます。まだ実用化されておらず例規を整えてから、これから使用するということでした。一定の額をプリペイドカードで購入して機械を設置する方法もあるので、それは今後の検討課題です。

（土生田副市長）

当然、設計段階で、それは折り込みにしておいてもらわないと、将来的なことを考えれば、必ず誰かが負担しないといけない問題になってくると思いますので、想定をしておいていただきたいと思います。

（正木教育次長）

学校開放事業については、市長部局へ補助執行となっているという状況ですので、その辺の判断、また、減免についても当然、市長部局判断になりますので、そういうことを含めて、検討をお願いしたいと思います。特にこの空調の関係で、教育長から何かございましたら。

（教育長）

よい意見をいただいて、ありがとうございます。優先順位として、先ほど、選択肢があったのですけれども、教育委員会の予算を減らして、こっちにという考え方は、私は全く持っておりませんので。

（正木教育次長）
他にどなたか、この空調整備に関して、ご意見等ございましたら、話していただけたらと思いますが。よろしいでしょうか。そうしましたら、次の議題に移りたいと思います。

議題の２つ目、「教育現場でのICT活用について」でございます。この議題につきましては、市長から提案があった案件になりますけれども、まずは、学校教育課より、現状や課題などにつきまして、ご説明をさせていただきたいと思います。

（学校教育課　川島主幹）
「教育現場でのICTの活用について」、環境の整備と指導の充実の２つの面からのお話をさせていただきます。
まず、課題です。本市の課題、４つあります。１つ目は、児童生徒の家庭の Wi-Fi 環境が整っていない家があること、２つ目が、特別教室における Wi-Fi 環境の整備が十分ではないこと、３つ目は、教員の活用指導力が十分ではないこと、そして、４つ目は、学校教員の情報教育担当の負担が多くなっていることです。
１つずつについて見てまいります。課題１の児童生徒の家庭の Wi-Fi 環境です。９月上旬に各学校に調査をした数字です。児童生徒 4,600 ほどの家庭のうち、150 の家庭で Wi-Fi 環境が整っていません。割合にすると、約３％になります。普段、タブレットを持ち帰って家庭学習に使うこともあります。また、コロナやインフルエンザにかかって欠席している場合、それから、それらが蔓延して学校閉鎖・学級閉鎖になった場合、オンラインで授業をすることもあります。これらの場合に対応できない児童生徒が一定数いることが課題です。
２つ目の特別教室における Wi-Fi 環境の整備です。この数値は、今年度、春に実施した文部科学省調査を利用したものです。本市は児童生徒が主に学習したり、過ごしたりする普通教室の整備状況は、ほぼ 100%と、とてもよい状況です。しかし、音楽室や理科室などの特別教室・体育館の環境は、全国の数値と比べて、それぞれ 10 ポイントほど低くなっていて、まだ十分とは言えません。
課題３つ目の教員の活用指導力についてです。昨年度の県教委が実施した調査の数値を使っています。これは豊岡市の教員が他の市町の教員に比べて特に低いとか高いとかというわけではなく、どの市町も同じような傾向にあると考えていただいてよいです。いちばん上、ステップ０、このステップというのは、県の教育委員会が定めた基準、レベルになりますけれども、そのいちばん低いステップ０の段階で、何かできないことがある未到達者が 30%、それから、いちばん下、ステップ２、いちばん高いレベルのスキルに到達している教員が約 20%と二極化があるのと、全体の底上げが必要かなと感じています。
課題４つ目の情報教育担当の負担が大きいことについてです。これは、一昨年度の文部科学省調査に寄せられた自由記述での全国の教員の声です。「知識や技術を持った一部の教員に負担が集中している」「詳しい先生はみんなから頼られてばかりで、自分の仕事ができずにいる」「これまでの働き方と ICT 技術の習得や活用を同時に進めることは、教師の働き方として、無理が出ている」。
本市の教職員の声を聞きました。「児童生徒数が多い学校では、iPad の管理や運用が非常に煩雑で、環境整備を含めて支援をしていただきたい」「情報教育に関する業務や課題が年々増えて多岐にわた

っている。専門家ではないので対応に限界がある」「プログラミング教育の指導計画の作成や推進に苦労している」という声が上がりました。

ICT が教員の業務改善につながっていることは、紛れもない事実なのですが、他方で負担が多くなっているという面も否定できません。これらの４つの課題に対応するために、現在、市の教育委員会として取り組んでいること、それから、このような対応ができれば、もっとよいのではないかということを３点お話しします。

１つ目は、ポケット Wi-Fi の貸し出しについてです。現在、学校・学級閉鎖、それから、児童生徒が出席停止になったときに、オンライン授業を実施する場合に限って、環境が整っていない家庭に対して、ポケット Wi-Fi を貸し出しています。流れとしては、市教委の担当者が店舗に出向いて借りて、学校経由で家庭に届けています。容量や費用はここに書いてあるとおりです。さらなる充実に向けては、タブレット端末を家庭学習でも活用することがありますので、常時の貸し出しが可能な体制をつくることであると考えています。

２つ目の取り組みは、GIGA スクール運営センターについてです。昨年度より、システムリサーチに委託をして、設置をしています。支援内容は、教職員への研修と技術支援、学校への訪問や、電話・メール等での対応をしていただいております。さらなる充実に向けては、各校の教職員にサポート内容や依頼の流れなど、しっかり市の教育委員会から周知すること、それから、２点目として、学校における ICT 環境の運用や管理、ICT 教育の推進をサポートする ICT 支援員の配置が効果的ではないかと考えています。

取り組みの３つ目は、教職員に向けた研修です。市の教育委員会としては、年に３回、講義や授業における活用の仕方、プログラミング教育・情報モラルなどについて研修を行っています。今年度は、教職員の知識・技術の底上げを目的に、苦手意識がある教員を対象とした研修を８月に実施しました。２回目を11月に実施する予定にしておりますが、これも苦手な教員を対象として、実施していきたいと考えています。

市の教育委員会以外に、県教育委員会の但馬教育事務所も、年２回の研修を実施しています。さらなる充実に向けては、レベルの違い、目的の違いに対応した研修が有効ではないかと考えています。

以上、教育現場での ICT の活用について、本市の課題・取り組みと、さらなる策について、お話ししました。

（正木教育次長）

担当課からの説明は以上となります。ご意見がありましたら、お話しいただけたらと思いますけれども、まずは、議題として提案いただきました市長からのお話をお聞きいただきまして、ICT の活用に対して特にお考え等がございましたら、お話をいただけたらと思います。

（関貫市長）

学校に関しては、この ICT ということは、残念ながら、豊岡市においては遅れをとっているという感が否めません。先ほどの説明の中で、その内容の難しさというのか、不慣れさというのが教員の方にはあるというような状況も見えましたけれども、そこのところはやり方次第だと思います。

今、学習支援ツールと称していろんなツールがあって、それを使えば先生方も楽になる、生徒とのやりとりも簡単になり、密になるというような支援ツールだと聞いておりますが、それを使うということがいいか悪いかということになると、先生方はみんないいと思っていらっしゃると思います。

ですから、自分がそこで、どこかで接した内容を使いながら、自分が生徒に対してできることはや

っていらっしゃるという先生方も多いのですけれども、そうなると、個別の行動・能力に頼ってしまうというのが多くなっているというようにも感じるので、やっぱり、豊岡市内、全校を通じた学習支援システムというのを統一的に使っていただいて、仮に学校を転校というか、職場が変わった先生がいると、違う学校に行ったとしても、同じものを市内では使っていたら、そこでまた１からやって使わなければならないという問題はなくなると思います。

そこのところは何が問題になるかというと、どの支援ツールを選ぶかということですけれども、その辺を研究していただきたい。また、県がそういう面で支援する内容があれば、その辺を一度確認していただきたいと思います。

ここにもGoogle Workspaceということで、書いてありますけれども、これはグーグルが提供しているものということで、こういうものがあるというのは皆さんご存知だと思いますけれども、その他でも大手のこういった会社がロイロノートだとか、ミライシードだとか、いろんなツールとして出されている。

他府県の各市町に触れられるときがあってそれを確認したら、やっぱり全市内で、これを使っているというようなことを聞きました。やり方、使い方がわからない、よく知っているというようなことが混在している範囲が広くなるので、わからないところをフォローしていただける人材も多くいるのかなというふうに思っています。

あとは、GIGAスクールに関連した支援を今行っていただいていますけれども、支援内容です、研修及び技術支援等々ありますが、学校ごとに違うものがあるという状況でやっていただいているのか、学校はどこに行っても同じもので、それに対して、問題、わからないことが起きたときに支援をしていただいているのか、その辺はどういう状況なのですか。

（正木教育次長）

今、市長から学習支援ソフトの関係と、それから、学校に対する支援の関係についてのお話がございましたけれども、事務局から今の状況について、わかる範囲でお答えいただけたらと思います。

（教育長）

学習支援ソフトって、共通したものがありますね。

（教育総務課　木之瀬課長）

市内共通して使っておりますのは、先ほどありましたGoogle Workspaceと、あとは、ドリル教材として、e ライブラリというのを共通して使っているところでございます。それ以外のものについては、各学校の予算で使っているものもあると聞いております。

もう１つ、GIGAスクール運営支援センターの関係ですけれども、学校ごとでの対応ということではなく、基本的に学校から、何か困りごとがあったら、運営支援センターに連絡をしていただいて、それに対して、担当の方が対応していただくというようなことでございます。

（教育長）

学習支援ソフトは、全般的に学習の方法として、文部科学省が言っているのは、ICT を使って個別最適な学びをするということ、個人に応じて、習熟に応じて、興味関心に応じて、できるということ。もう１つは、協働的な学びをしようと言っていますけれども、個別支援は得意なソフトがたくさんありますけれども、協働的な学びがなかなかソフトとしては難しい。それがいちばん得意なのがロイロ

ノートです。なので、ロイロノートのファンはたくさんいる。ただ、これはお金がいるということで、それができるものが、Googleにもありましたね。学校訪問をしたら、Jamboardを使ってやっているところは、たくさんありました。でも、使い勝手というか、使いやすさはロイロノートのほうがいいだろうという話を聞いています。その導入のほうが、ニーズが高くて、予算化してもよいということであれば、それはぜひとも考えさせていただきたいと思います。

（正木教育次長）
　状況は今、教育委員会事務局からご説明したのですけれども、お話を聞いていただいて、市長から何かございませんか。

（関貫市長）
　先生の立場として、使い勝手がいいだとか、内容に対して共感するものが強くあって、これをぜひとも生徒たちとのやりとりで使いたいとか、そういう希望が出ているならば、それを入れるには、予算的にいくらいるだとかをご提案いただくというのがなかったら、こちらで選定してこれを使いなさいなどということも言えないわけですから、最適なところを見ていただいて、仮に入れたとしたら、恒久的にしてあげないとならないので、そこが耐えうるかどうかの判断を当局側としてはするということになります。
　提供の仕方が、学校教材という意味であれば、やっぱり一部、全体の金額の一部を各家庭に望んでいたという過去の事例もあるので、今はあるのですか。

（教育長）
　副教材はこの前、議会で述べたように、個人負担してもらっています。

（関貫市長）
　そういう面で、それが今でも続いている。そういう内容までやるべきであるというような考え方があるならば、その１つに入れてもいい部分。全体ではありませんけど、一部は。その辺は考えようであるので、予算の組み立て方でやるべきことかもしれませんけども。だけど、材料がなかったら判断ができないので、教育委員会としては、先生・子ども・学校ということが、いちばん最適に動く方法、それをやっぱり考えていただくというのが基本的にはあると思うので、そこをこうしたいということで、こちらに伝えていただける、というような内容をこちらとしては求めますね。

（教育長）
　そうしたら、活用環境調査の。

（学校教育課　川島主幹）
　はい。これが使ってみたいソフトというところで、学校の情報担当から出てきた、今、これは小学校ですけれども、教育長がおっしゃったように、ロイロノートというのが人気があるのかなと思います。

（土生田副市長）
　素朴な疑問で、教職員の方々の異動を考えると、こういうものって、なるべく広いエリアで共用化

されたほうがいいと思います。転勤で教職員のストレスにならないように、いろんなもののシステムを導入するのであれば、せめて近隣の市町であるとか、本当だったら県教委ですべて同一規格で入れられるべきだと思うので、但馬教育事務所にも、そういうふうな導入検討会みたいなものとか。以前、校務支援システムのときにも同じような話があって、教職員にとって、転勤の度にストレスになるのであれば、できるだけ広い範囲で共用化すべきだと思います。そういう意向を教育委員会側は、何かお持ちですか。

（教育長）
GIGA スクール運営センターのときには、教育委員会連合会でちょっと話をしたことがありますけれども、この支援ソフトについては、まだないので、今のようなお考えを反映させていきたいなと思います。

（教育総務課　木之瀬課長）
副市長がおっしゃることはもっともでございまして、市教育委員会としましても、県に対して、県内での校務支援システムの統一というようなことを要望として上げているところでございます。

（関貫市長）
それと、このロイロノートかミライシードか、これのどちらかを導入した場合、後のフォローが大事だと思うのだけど、販売者によっては、ものすごく細やかな対応をするようになっている。だから、先生は何かあれば、そこに聞けば、何でもわかるという状況もあるので、購入先は、そういうところがきっちりしているところを選ぶというのも１つの手であるということは忘れないようにしてほしい。

（教育総務課　木之瀬課長）
最近は、製造元の各社がサポートに非常に力を入れておられます。本市が入れております e ライブラリにつきましても、この間、製造元の会社の方が見えられまして、各学校を回らせていただきたいというようなご提案がありまして、また、近日中に調整をさせていただくところでございます。
その他、ロイロノートにつきましても、以前、国の補助事業の関係で、何校か試しに使わせてもらったところですけれども、その際も、オンラインも含めて、年間何度かの研修というようなところも無償でしていただいたところでございます。やはり、各社とも先生の状況というのをご存知ですので、そういったところは力を入れておられると思います。

（関貫市長）
Wi-Fi 環境がない家庭があるという実態が見えましたけど、現状ではその対応をどういうふうにしておられますか。

（学校教育課　川島主幹）
先ほど申しましたように、学校が臨時休業したり、児童生徒本人が出席停止になってオンラインでつないでやるという場合は、貸し出しをしています。そうでない場合は、対応ができていません。

（関貫市長）
できていませんというのはどういう意味なのか、しなくていいという思いなのか、その辺は。

（学校教育課　川島主幹）
　できればしたほうがいい、すべきであると思います。

（関貫市長）
　いつでも使えるようにということですね。

（学校教育課　川島主幹）
　その方法はいろいろ考えなくてはならないのですが、やはり全家庭で整っていないので、学校としては、持ち帰らせにくいです。オンラインにつながない方法で、もちろんやることもできるので、そういう場合は持ち帰らせて活用させているのですが、やはり、インターネット上でつないで、活用するほうが圧倒的に有効ですし、ほぼそれが主であると考えています。

（土生田副市長）
　今までの実績で、一日に最大で貸し出ししなければならなかった局面は、どれくらいありましたか。

（学校教育課　川島主幹）
　３台くらいです。

（土生田副市長）
　これを維持するランニングコストを考えたときに、本当にいちいちレンタルするほうが最適なのかどうか。マンパワーやコストを考えたときに、やり方としてこれが最適とは思えない気がします。

（正木教育次長）
　今、副市長からありましたけれども、これはあくまで、臨時休業・出席停止で、一時的に貸し出す場合の方法というふうなことで、理解したというふうに思っています。おそらく、このレンタル費用、１日 450 円を常時ということになると、相当の金額になってきますし、一般的に言われている接続料金でしたら、もっと格安になるのではないかというようなこともございます。

（教育総務課　木之瀬課長）
　家庭に Wi-Fi 環境がない理由としましては、まず、1 つは経済的に厳しいというようなところがあると思います。もう 1 つが、家庭内で、保護者の方が、子どもにそういう環境を与えるのはどうかというような考えの家庭もあるということで、おそらく 2 つぐらいの理由があると思います。最初の経済的な理由につきましては、最近では、就学援助、低所得の世帯に対して、学用品などの援助を行っている制度があるのですけれども、その中で、オンライン学習通信費として、年 14,000 円程度の支給が費目として認められるという状況もございますので、そういったことも検討しながら、考えていきたいと思っております。

（正木教育次長）
　教育委員の皆さんも学校訪問などで、タブレットを活用した授業などをご覧いただいていると思いますけれども、この件に対しましてご意見等ございましたら、ご発言いただけたらと思います。

（飯田委員）
　学校によっても日によって違うのかもしれませんが、活用の頻度はクラスによって、差があるように思いました。先ほどの話をお聞きしても、先生のレベルもそうですが、子どもたちのレベルにも差があり、授業をしていく中で、同じようにマッチングしながら進めていくというのは、非常に難しい状況だと感じました。今は支援員の先生も入って一緒にやっていただいているので、少しずつ、少しずつ進めていっている状況です。子どもたちは教室のスクリーンを見ながら、自分のタブレットを見ながらついていっているという状況で、非常に良い環境になりつつあると思います。これからどんどん知識やスキルを身につけていくだろうと思っています。

（向井委員）
　確かに、ICT の活用に長けている先生と、苦手な先生がおられると思います。同じように底上げができればいいのですが、先生方も本当に多忙で、豊岡市独自のふるさと教育・英語教育・コミュニケーション教育とかがあるので、それもしないといけない。また、多様なお子さんが多くて、先日の学校訪問の際にも、授業に入れない子がいましたが、その子たちにも先生方は一生懸命指導してくださっていました。先生方のおかげで、毎日登校でき、機嫌よく過ごせているという子がたくさんいると思うので、本当に感謝しています。
　それに加えて、ICT活用のための勉強もしなければならないですし、一方で、働き方改革のこともありますので、本当に大変だと思います。ICTの分野では、先生方をしっかりと支援してくださいますよう、よろしくお願いします。

（正木教育次長）
　向井委員から支援をということでのお話がありましたけれども、事務局、特にこの支援のあり方について、もう一度詳しく説明いただけたらと思います。

（学校教育課　川島主幹）
ICT 支援員というのを豊岡市では配置していないのですけれども、各学校に回ってもらって、年度初めは端末等々の管理や運用についてサポートしてもらって、またそれが軌道に乗ってきたら、ICT の教育、授業に入ってもらったり、授業を推進していくための詳しい話などで支援をしていただくという人が何人かいて、関わってもらえるというのは、非常に有効なかたちであると思います。

（正木教育次長）
　ありがとうございます。升田委員、いかがでしょうか。

（升田委員）
　先ほどから市長もおっしゃっているように、ICT というのは、学校の中で絶対に外せないものになるのだろうと思います。どのように活用していくかということになるのでしょうけど、先ほど出ていましたが、私などが仮に入るとすると、ステップ０の教員になります。そういう方もいらっしゃれば、とても長けた方もいらっしゃる。
　学校訪問で感じたことは、子どもたちはかなり水準が高いような気がします。先生ももちろんそれに伴って大いに使われていますが。これはもう時代で、外せないだろうと思うので、私のようなステップ０の人に焦点を当てていただいて、どんどん底上げをしていただけたら有難いと思います。先生

方の支援をしていただく方が上手に学校の中に入っていただいて、１つの学校でも年に２回もしくは３回、実際に会っていろんなことを教えていただくというのがいちばん力になるような気がします。そういった制度というか、支援体制ができたらいいなと感じています。

（正木教育次長）
教育長から何かありますか。

（教育長）
情報提供ですけれども、先週の金曜日に出石中学校の学校訪問をしたときに、情報通信機器をそれの授業で、使っているか、使っていないかのチェックをしましたけれども、だいたい８割ぐらいは使っています。体育を除いて。体育は外でしたから。使っていないのは、使えないのか、それとも、その授業で使う必要がなかったのか、というのはわかりませんが、わりとベテランに多いということです。

それから、今日の話題で、第一にしなければならないのは、家庭での Wi-Fi 環境だろうと思います。家庭環境によって不平等が生じるということは絶対避けなくてはいけないことですので、これをしたいのですが、その先のことを考えると、タブレット持ち帰りになりますので、持ち帰ると何があるかというと、故障があります。その費用も含めて、どうするかということを今後、考えていく必要があるのかなと思います。

（正木教育次長）
全般を通しまして、いろいろとお話をお聞きいただいたのですけれども、市長から何か最後にご意見がありましたらお願いします。

（関貫市長）
これまで、自分自身が育ってきた年代を考えると、年配には難しいという点で言うと、今までも、世の中に新しいものができた時に、操作ということではやはり年配の人には戸惑いがあるけれども、使ったらできてきたという事例もたくさんあります。

この ICT の内容に関しては、ICT そのものを作っていくのではなくて、提供されたものを使うという立場でいいわけですから、使うということは慣れたらできるのです。「私はできない」というような拒否反応をまず出していらっしゃる年配の方が多いのかなと思います。そこは親切丁寧に教えていただく。それとともに、自分でも動くこと、操作することに興味を持っていただいて、プログラミングという難しい言葉で書かれた内容も、それをやっていくツールというのは Scratch だとか、簡単なものがあって、それは子どもたちが自由自在に使います。すごい知識がなくても、それを見て、触って、遊んでいたら、できちゃう。それだと思います。急いで、これを３日以内に習得しろなどと言うことは、もちろん言えないけれども、出てから長い期間かかっているのに、同じ状態であるというのはちょっと問題であると思っています。とにかく、触れていただければと思います。

向井委員が言われたように、先生はこれもしなければ、あれもしなければという状況があるとおっしゃったのですが、仮にそれができないことであって、悪いことだったら、絶対にどこかが、誰かが止めますよね。文部科学省にしても。だけど、それをやってほしいという希望で、それはできるだろうというのが原則であって、先生方にお願いしている。当然、頼まれたものはやっていくということに対して、最大限努力をしていかなければならないというような状況もあると思います。

だから、今の状況であふれきってもう何の余地もないから新しくはできない、なんていう状況なのかどうかということを考えたら、僕としてはそうではないと思います。それまでにやられていることも整理して、効率よくやっていくということは必要でしょうし、今後、新しく出てくることも、何とか自分がそれを習得できるようなかたちを考えていくというのも、どの仕事の場面においても、それは言えると思うので、そこのところはもっとフレキシブルに指導をしていただきたい部分もあるし、指導を受けるというか、勉強する側ももっとフレキシブルにやってほしいと思っています。

（向井委員）
先生方はみんな前向きに一生懸命やっておられます。

（関貫市長）
当然、一生懸命やっていらっしゃると思います。できないと言うのであれば、何かを取らないと、何かをなくさないと空白ができません。それを反対に、教育委員会の側で選択してあげればよいのでは。あれもやれ、これもやれというのは基本的には教育委員会です。それを無理難題を押しつけているという気持ちがあるのでしたら、選択して、どれかを外さないといけないということになります。

（向井委員）
何かを取り除きたいということではありませんが、どのような支援があれば、先生方の負担が減るのだろうと、いつも思っていましたので、ICT の支援員を置くことで、少しでも先生方の助けになってくれればと願っています。

（飯田委員）
急激にこういうIT関係が進んできたものですから、今社会全体が、私もあまり得意ではありませんが、これから時代が変わってきたら触らないわけにはいかない。そういう意味では自分なりの努力も要るんですね。むしろ子どもたちのほうが早く触っているので、レベルも上がっちゃっています。そうしたときに、我々のような不得手なものがどうして早く慣れていけるのか。それは自分たちの努力。しかし、今までやらなければならない自分の仕事があるとなったら、今、向井委員がおっしゃるように、個人にとっても精神的な負担がかかるという部分もあると思います。
でも、今はちょうど過渡期ですが、やがては ICT 社会になってみんなが最低限のレベルで触れるようになると思います。今現在の状況では、先生の中にも得手不得手の差がついているという状況が如実に表れていると思います。今後、不得手な先生をどのように支援して、底上げを図るのかが重要な課題で、研修を受けたり勉強するにも時間がかかるので労力や負担になりますが、今はちょうどそのあたりのことが混在しているのかなと思います。ただ、これはやがては消化されていくのではないでしょうか。

（正木教育次長）
いろいろと意見を出していただいておりますけれども、総じて言いますと、先生方に対して何らかの支援をしながら、全体的な底上げを図っていかなければならないということは、皆さん、意識としては持っておられると思います。ICT の関係では、まだご意見をお持ちの方もあろうかと思いますけれども、時間もございますので、この件については終了させていただきまして、次の議題に移りたいと思います。

次は、「STEAM 教育の推進について」、学校教育課より説明をさせていただきます。

（学校教育課　服部所長）

STEAM 教育の推進について、学校教育課からご説明申し上げます。内容としまして、１　STEAM 教育とは　(1)概要　(2)STEAM 教育の流れ

２　兵庫県、他市に見る STEAM 教育の推進　(1)兵庫型 STEAM 教育の概要　(2)加西市における STEAM 教育の概要

３　本市における STEAM 教育推進の可能性

の章立てをしております。

STEAM 教育とは、科学・技術・工学・芸術・数学の５つの英単語の頭文字を組み合わせた造語であり、それぞれの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念のことです。探求と創造のサイクルを生み出す分野横断的な学びになります。

次に、こんなに世間で STEAM 教育が叫ばれている背景についてです。2019 年の文部科学省による GIGA スクール構想において、１人１台端末等が整備されました。2020 年の学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントで教科等横断する教育課程が進み、令和の日本型学校教育では、個別最適な学びで ICT の活用、協働的な学びで STEAM 教育の推進を掲げております。2021 年には、この後にも説明申し上げます兵庫型 STEAM 教育が県立高校３校にて推進されました。

文部科学省が示しているように AI や IoT などの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今の時代に必要な力として、文系・理系の枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を統合し、課題の発見・解決・社会的価値の創造に結びつける資質能力の育成が求められています。また、それらの力の育成のため、教科横断的な視点から教育課程を図ることと設定しています。

まとめますと各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習としての STEAM 教育が必要だということになります。

では、この動きについて県や各市町はどのような取組を進めているのか簡単に見ていきます。

県では令和２年度から３年間、兵庫型 STEAM 教育として取り組んでいます。県立高校３校をモデル校として、STEAM 学科の設置等を目標に展開されました。来年度から実際展開されるため、注視するところです。

市町の取組としましては、県内では加西市のみ取組を行っています。加西市では、総合的な学習の時間において、STEAM 教育を進めています。具体的には、柱１「総合的な学習の時間×STEAM」として、身近にあるリアルな問題や課題を克服するためのアイデアを生み出します。テーマは、加西市の魅力として「ものづくり企業」「農業・食育」等をあげています。

柱２「GIGA スクール構想×STEAM」では、プログラミング的思考の育成を目指して、課題の解決やそのまとめにむけて、ICT をどのように効果的に活用するかに取り組んでいます。

柱３「特別活動・学校行事×STEAM」では、防災で学んだことを生かして、自分たちで避難訓練をプロデュースしたり、自然学校で利用した施設について、「利用者が増え、来てよかったと思える施設」にするためのアイデアを、実際施設に提案したりしています。

最後に、本市における STEAM 教育推進の可能性についてです。

まず、本市の取組である「豊岡こうのとりプランの概要」について確認します。

１つ目の柱である「系統性と一貫性のあるカリキュラムで実践するローカル＆グローバル学習の時間」におきまして、ふるさと教育・英語教育・コミュニケーション教育を展開しております。そして、

毎年、その取組について検証活動を行っております。

次に示しますのは、本市で考えられます「ふるさと教育」における総合的な学習の時間と STEAM 教育のイメージ図となります。

地域の特性として、「ジオパーク、コウノトリ、産業・文化」の視点で、教科との関連、ICT の活用を通して課題設定・情報収集・整理分析・まとめる学習を展開していきます。中３で「ふるさと豊岡と未来の自分」をテーマに課題解決について考え、発信・交流していきます。この一連の流れの中では、教科等との関連、ICT の活用、演劇的手法や英語で発信といった STEAM の手法が多くちりばめられています。

その他、現在豊岡市が展開している「豊岡こうのとりプラン」に STEAM 教育がどう関連しているのかを見ていきます。

１つ目として、先ほどの例にも挙げましたふるさと教育×STEAM 教育です。

「我がふるさとを E（英語）で語れる子どもに！」、「外部に発信する機会へ！」として、現在展開しているふるさと教育やコミュニケーション教育、修学旅行での行先での学習に STEAM 教育の視点を入れるというものです。また、ジオパーク×STEAM 教育として、「ジオパークを S（科学）、A（芸術、教養）で課題解決型の学習」に展開させていくというものです。

２つ目は、コミュニケーション教育×観光・芸術×STEAM 教育として、「まちの魅力を STEAM で確認し、新たに探す学習に！」で教科等横断的に様々な学習に広げていくというものです。様々あると思います。

それでは、昨年の実践例を一つ挙げます。

これは、城崎小の４年生と豊岡市商工会青年部城崎支部がタイアップした取組です。児童が、竹野クリーンパークへ社会見学した体験から、ごみ問題や給食などの食材や文房具、温泉での水資源といった視点から、持続可能な日常について、自分たちが考えたことを地域と連携し、絵本で発信した事例です。この実践にも、教科等との関連、ICT の活用、演劇的手法や英語で発信といった STEAM の要素が多くちりばめられています。

今後は、各校の実情に合わせて各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習としての STEAM 教育をさらに展開していくことになります。

今後の流れを注視していくことが大切となりますが、現在取り組んでいる教育活動に、効果的に STEAM 教育の視点を取り入れていくことが本市の目指す教育になります。

以上で、STEAM 教育の推進についての説明を終わります。

（正木教育次長）

事務局からの説明は、以上のとおりとなります。STEAM 教育に関しましては、まだまだこれからの教育課題だろうと考えておりますけれども、この STEAM 教育に対しまして、市長はどのようなお考えかということをお話しいただけたらと思います。

（関貫市長）

今の STEAM 教育の始まりは、A がなくて、STEM が最初だったということでしたが、そこにはやはり、A を入れるべきだろうということが、近年言われてきて、入ったと。だからその通りでいいと思います。　気になったのは、ふるさと教育のところの説明で、例「我がふるさとを E で語れる子どもに」の、E というのは STEAM の E にもじっているわけですか。

（学校教育課　服部所長）
今、各県立高校でも、Engineering と English を入れた取組を推進しています。

（学校教育課　寺坂課長）
兵庫県では独自に英語というものをかけています。エンジニアリングと一緒に。ちょっとエキスとして加えるということです。

（関貫市長）
この STEAM というそれぞれの頭文字の意味合いを、下に書いてある例以下で、当てはめて表現しているから、これはこれでいいと思います。ネット上だとか文部科学省が出している STEAM 教育は、こうであるというところと比較すると、ちょっと違うのではないかと感じる部分があるので、そこは、その違いを感じつつも、こういうふうにやっていっているというのがここであれば、それによって、STEAM 教育がなぜ必要かという部分が書いてあったと思いますが、「課題の発見・解決・社会的価値の創造に結びつける資質能力の育成が求められる」ということを言っているわけだから、これが今、前段の説明の「E」が英語であって、この部分が進んでいくならば、別に問題はないと思います。
なぜ STEAM 教育がということで、大きな見地で言うと、世の中で何が今必要なのか、どういったところを成熟させていくべきか、今何が世の中でやられるべきかというような概念を植えつけることの１つとして、Society 5.0 とかね、そういうことが言われているのだけれども、それから派生して、STEAM だとか、STEM だとかが出てきたというように思います。日本という大きなステージで考えると、だんだんと変わってきた日本があります。いろんなランクで、日本が下に落ちています。それは何が欠けているのかということを考えると、この STEAM 教育が必要であるという結論に至っていると思うけれども、そこのところをきっちりと見て、この内容を実践していける子どもたちが将来育っていく方法はこうだということで豊岡がやっていくのだったら、問題はないと思います。その辺の判断をもう少し緻密にやっていただきたいという希望はあります。

（正木教育次長）
正直、STEAM 教育自体、まだ今からのものということもあります。教育委員も、まだ具体的なご意見まで形成いただけているということではないのかもわかりません。何かご意見がございましたら。副市長、何かございませんか。

（土生田副市長）
もう今になったら、子どもたちの中でも、文系・理系というのは頭の中では概念がないですから、今後はとらわれなくても、いろんな局面で、実体験持っている子どもたちがどんどん増えてきていますから。先ほどのデジタルネイティブな子たちなんかは、本当におっしゃったように、ここから先どんどん、どれだけの技能を持たれるかわからない。ただ、大人たちが、今までの概念でどうしても枠にはめようとしてしまうことのほうが間違っているのだろうと思いますから、子どもたちの可能性を伸ばすためには、こういうことに力をいれておいていただきたいなと思います。

（正木教育次長）
教育長から今後の豊岡市の STEAM 教育の展開について、ありませんか。

（教育長）

今、始まったばかりですけれども、市長もおっしゃいましたし、ここに書いてあるように、文とか理とかではなくて、すべての知慮を総動員して問題解決をしようということですけれども、これ１個、ものすごく大切なことは、今まで学校でやっていることって学校知とか学級知と言われて、20 坪の中だけで用意された問題を解決しようと。先生が出した問題を解決しようとしていたのですけれども、そうではなくて、身近にある生活とか環境にある問題を解決するためにどうしたらいいのかというリアルな問題を最終的なお題にして、そして、算数では、数学では、英語ではというような、それぞれのアプローチで考えていこうという、教科横断的な学習なので、リアルな問題をとにかく先生たちは考えていく。

そのためには、城崎がやったような商工会の力を借りるとか、あるいは、NPO 団体の方たちと話をするとか、というようなことが必要になってきますので、ひいては、教育課程を外に出して、開放された教育課程を作っていくことになると思いますから、間口がとても広いですので、その中で豊岡はどんなことをやっていったらいいのかということを考えていきたいと思いますが、可能性としてはさっき言ったように、新たなことをやるのではなく、今やっていることをどう発展させるか、STEAM 教育の視点で、どうやっていくかということが大事だと思います。

（正木教育次長）

STEAM 教育に関しまして、何かご意見・ご発言等ございましたらお願いします。

そうしましたら、STEAM 教育については、これで終了させていただきまして、次は報告事項に移りたいと思います。部活動の地域移行につきまして、学校教育課よりご報告をさせていただきます。

［日程４　報告事項］

（学校教育課　川島主幹）

学校教育課から部活動の地域移行と地域連携について、お話しします。たくさん資料をつけているのですが、時間の関係で 13 番目のシートから。他のものはこれまでの経緯ですので、またご覧いただけたらと思います。本市の方向性と今後のスケジュールからお話をさせていただきます。

このイメージ図は、国が考える休日における学校部活動の地域連携・地域移行のイメージです。オレンジの左上①が、市町が事務局となって、関係団体と連携して地域クラブを運営するイメージです。中学生はこの地域クラブに通ってスポーツや文化芸術活動を行います。

右上は、スポーツ 21 などの総合型地域スポーツクラブや民間事業者に委託して、地域スポーツクラブを運営してもらって、そこに中学生が通うイメージです。上の 2 つが、いわゆる地域移行というかたちになります。これは、いずれにしても、新たな地域クラブを整理する必要があって、非常に負担が重く、時間がかかると言われています。そういう声が地方から国に届いたために、国は新たに、下の緑のようなイメージを加えました。これは、部活動指導員を学校の部活動に配置して指導にあたってもらう、いわゆる、地域連携という理念です。

緑の左側は、各学校の部活動ごとに指導員を配置する。右側は複数の中学校で、合同部活動というものを立ち上げてそこに指導員を配置するというものです。昨日、豊岡市の部活動の在り方検討委員会の第２回の会議を開きまして、下の③番、緑の枠のいわゆる、地域連携のかたちから進めていこうという方針を確認したところです。

次のスライド、これは市立中学校の部活動の一覧です。部活動の種類がいちばん多いのが豊岡南中学校・豊岡北中学校で、現在 13 あります。最も少ないのが、港中学校で、３しかありません。学校規

模によって大きく差があることがわかっていただけると思います。右側が、先ほど少し触れました、部活動指導員の配置の状況です。今年度は、豊岡南中学校に運動部で１名、文化部で２名の計３名。あと、城崎中・日高東中・日高西中の運動部に１名ずつ部活動指導員を配置しています。現在は、学校と地域とのつながり、それから、管理職をはじめとする先生方と地域とのつながりで部活動指導員をお願いしているのですが、今後、指導員をどう確保していくかが大きな課題となっています。

部活動指導員の配置については、先ほど申しましたように、直接各中学校に配置する状態にしているのですけれども、人材バンクを立ち上げて、登録を行ってもらって、そこから各中学校に配置していく段階に移行するイメージを持っています。それと同時に、少子化による部員不足であったり、先ほども触れました、部活動の選択肢の少なさというものも大きな問題になっていますので、複数の学校での合同部活動のかたちを進めていく必要があるのではないかと考えています。

現在進めているあり方検討委員会での流れです。昨日、第２回が終わりました。今年あと２回ほど会議を行って、右下の枠にあります、視点、これが移行・連携に向かった場合の課題の洗い出しや協議の視点ですけれども、ここに沿って整理を行って、少しずつ前に進めていきたいと考えております。

大きなスケジュールとしては、今年度から来年度にかけて、先ほど申しました人材バンクの立ち上げの準備を進めていく予定です。今後、決定していく移行案に従って、来年度の下半期から再来年度にかけて、休日の地域連携・地域移行を試していって、課題の整理と改善を行っていきたいと考えています。

平日の地域連携・地域移行に関しては、令和８年以降になるかと考えています。ただ、国の方針がはっきりしなかったり、関係省庁が望むような予算がつかなかったりしているのが現状です。国や県の動きを注視しながらの推進になるかと考えています。

（正木教育次長）

担当課からの説明は以上となります。今日は報告事項としておりますので、意見交換という時間は特に取る予定はございませんけれども、何か関連してご発言等がございましたらお願いします。特によろしいでしょうか。

そうしましたら、次に、その他に移ります。その他としまして、土生田副市長より情報提供いただける事案がございますので、お聞き取りをしていただけたらと思います。

【日程５　その他】

（土生田副市長）

９月９日に竹野地域で、市民ワークショップということで、公共交通、JR の利用促進について、竹野地域の市民の方々と専門職大学の学生さんたち 10 数名、専門職大学の学生さんは 10 名以上が JR に乗って竹野まで来ていただいて、何回かワークショップをしていただいています。その中で、学生さんたちが意見として、小中学校等で公共交通機関をもっと利用する機会を増やしてはどうでしょうかと。市民の方々の中でも、昔は遠足で香住まで JR で行ったなと、そういう記憶の方もいらっしゃるのですけれども、この頃はほとんど貸切バスで動いているのではないでしょうかと、そういうご意見が多数ありました。私もそこの場所にいまして、児童生徒にも、公共交通の持続、そこの危機感ということもあるでしょうし、公共交通を使う意義というのは、今の若い子たちにとっては、二酸化炭素を減らすという意味合いのほうがはるかに大きいので、そういう教育の場としてもお考えいただく、近日中に総合教育会議がございますので、このワークショップでいただいた意見、これをしっかりお伝えさせていただきたいというふうに申し上げました。

次回、竹野地域の市民ワークショップは、また 10 月 21 日、この日、私は行けないのですけれども、これはしっかりお伝えさせていただいたということと、当日、雑談の中でもあった話ですけれども、遠足などで利用しようとすると、今、市では、第２水曜日と第４金曜日、ノーマイカーデーで、全但バスが 500 円で乗り放題になります。どこまで行っても、市内であれば。例えば、竹野から但東まで、全但バスを乗り継いで、往復 500 円で行ってこられれば、遠足の行程も組むことが可能でしょうし、小小連携だとか、小中連携などでも、こういうものを活用すればいいのではないか。それから、専門職大学の学生さんの中では、トライやる・ウィークのアイデアとして、５日間、トライやる・ウィークは、基本的に各中学校区の中で、今、体験をされているケースが多いかと思いますけれども、但東の子どもがシーズーまで行って、そこで体験してみたり、竹野の子どもが神鍋のキャンプ場のお手伝いをしてみたり、豊岡市街地の子どもが但東で農業体験を５日間やってみたりと、こういう仕組みで、学校の教育現場がご理解をいただけるのであれば、公共交通部門は、逆に、交通事業者に、そういうことへの利用が可能かどうか、そうなれば、バス運転手さんという職業を選ぶためのトライやる・ウィークに乗車期間はなると思いますし、また、子どもたちから大人に、公共交通のあり方が、今こういうことですよね。こういうものを使えば、社会的にどういうふうな影響が出るかと、それから、自分たちで時刻表を見て、この職場に行くにはどの時間帯に乗らねばならないかとか、そういう学びにもなるのではないかと、学生さんたちからそういう意見がたくさんありまして、結構ためになる意見交換ができた場所ですので、この場でお伝えさせていただいて、改めて、教育現場で、公共交通機関を利用いただくことが、今後可能になるのかどうかということをまた、ご検討いただけたらと思います。今日は情報提供というかたちで、申し上げさせていただきました。

（正木教育次長）

ありがとうございます。何かご質問等ございましたらお願いします。その他、全般を通しまして、何かございましたら、お話しいただけたらと思います。

（教育長）

ありがとうございました。いいお話がたくさんできたと思いますし、今後のことですけれども、これはご提案ですけれども、教育のことは教育委員会だけで考えるなどとは毛頭思っておりません。それで、部局から離れている独立ですから、もちろん、そういうことは権限があるのですけれども、学校の様子を知っていただき、そして、市長の思いを伝えるという場が１つ必要なのかなというふうに思いますので、「小中学校の校長と市長のふれあいトーク」、これを１回準備して、そして、市内の教育の今と今後について、語り合い、現場の事実を知っていただき、市長の思いを知っていただき、あるいは教育委員会の思いを知っていただき、その中には、副市長からあったような公共交通機関の活用について、そんなことも含めてもっと距離を縮める、そんな機会が持てればと思いますので、ご一考いただきますようよろしくお願いします。

【日程６　閉会】

（正木教育次長）

市長、よろしいでしょうか。他に何かございませんか。

特にないようでしたら、これを持ちまして、2023 年度の第２回豊岡市総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

----------閉会　午前 11 時 5 分----------